

イシバヤバネゴケ

Iwatsukia jishibae (Steph.) Kitag.

兵庫県ランク… A

環境省ランク… CR

■ 県内分布

佐用町

■ 国内分布

本州、九州

■ 選定理由

人為性		特殊性		学術性	
生育環境破壊		特殊生育環境	○	特殊な分布	
観賞用等採取		特異な生態		分布の限界	
				希少	○



■ 特記事項

2003年の調査では極少量の生育を確認（他の蘚類に混生して生育）。しかしながらその後（2007年、2018年）の調査では、生育は確認されていない。風穴周辺部の乾燥化による環境の激変により絶滅した可能性が高い。別名イシバコハネゴケ。

■ 保護上の留意点

—

■ 種の概要

茎は長さ5-30mm、ムチゴケ型分枝をし、先端は鞭状に伸び、幅は葉を含めて約0.3mm。葉は斜めに開出し、離在ないし重なり、長さ0.1-0.2mm、幅約0.1mm、1/2までV字形に2裂し、葉裂片は三角形、鋭尖から鈍頭、全縁。葉身細胞は方形、厚壁、トリゴンが不明瞭、表面がベルカ状。腹葉は小さく、糸状から披針形、2-6細胞からなり、まれに2裂する。油体は各細胞に数個、球形で微粒。雌雄異株。花被は短腹枝に頂生し、紡錘形。蒴は球形。無性芽はない。ブナ帯から亜高山帯の針葉樹の樹幹や倒木上にごく小さな群落をつくって生育するがきわめてまれ。